



塾長メッセージ

新入生の皆さんへ

(2020年4月1日 慶應義塾ウェブサイトに掲載)

塾長 長谷山 彰

新入生の皆さん、慶應義塾大学へのご入学おめでとうございます。

慶應義塾は皆さんを心から歓迎します。先にお知らせしたとおり、慶應義塾大学は、新型コロナウイルス感染症が拡大する状況を踏まえて、春の学部入学式、大学院入学式をやむなく中止とし、代わって、秋学期入学式に春学期入学の皆さんも参加する形で式典を実施することを検討しています。

新入生やご家族の皆様は、一堂に会して入学を祝う日を、さぞ楽しみにされていたことと思います。また、今年、卒業50年を迎えられる1970年三田会の皆さんは、新入生を歓迎し入学を祝うべく、1年以上をかけて、記念事業の準備を進めて来られました。

さらに、今年は日吉記念館の建て替え工事が終わって、入学式は新年度初めての公式行事として盛大に行われる予定でしたから、慶應義塾の関係者全員が大変残念に思っています。

現在、新型コロナウイルス感染症の爆発的な拡大が懸念される中で、学事日程

も変更になり、新入生の皆さんは戸惑っていることと思います。特に、地方から上京し、あるいは海外から入学した諸君は、生活の変化も重なって不安な日々を過ごしていることでしょう。新学期開始に向けて、慶應義塾は学部・研究科を中心に教職員が一体となって、皆さんが安心して学問に専念できる環境を整えるためにさまざまな対策を講じているところです。

しかし、事態は刻々と変化しています。奇しくも東京オリンピック・パラリンピックの年に、新型コロナウイルス感染症は五輪旗が象徴する五大大陸すべてに広がり、世界が新型コロナウイルスとの苦しい闘いを続けています。日本でも政府や自治体がさまざまな対策を打ち出していますが、有効な治療法が確立されていません。いこともあって、今後については予断を許しません。

従って、感染拡大を防止するためには、市民一人一人の自覚と良識ある冷静な行動が求められます。誤った情報に惑わされてパニックに陥ることなく、何が正しい情報であるかを見極め、適切に行動する。このことは課題の本質を見極め解決法を創造する学問の作法にも通じることです。新入生の皆さんもこれから学問を志す者として、不安を克服し、為すべき

ことを為す勇氣を持って下さい。

1946年4月、戦災の瓦礫の山が残る三田キャンパスで開かれた入学式で、戦時中に負傷して体調を崩していた小泉信三塾長に代わって式辞を述べた高橋誠一郎塾長代行は、「諸君は、慶應義塾がきわめて諸君に對し冷たい学校である、との印象を抱かれるであろう。諸君の及落に關する重大事でも本塾では揭示一本でしか諸君に通知しない。今迄の学校でのように、クラス担任や事務局から電話その他で直接諸君が受ける連絡を期待することは出来ない。自ら足を運んで揭示を見逃さぬよう努めねばならない。そうした六年間（※旧制予科・本科）を通して諸君は、自ずから、福澤先生のいわれた独立自尊という建学の精神を体得せられるであろう。」と話して式辞を終えました。

これを式場で聴いていた塾生の一人で後年文学部教授となった中山浩二郎はのちに當時を振り返り、『冷たい学校』、何と苛酷な響きを持った、それでいて清々しい自信に満ちたことばであることか。それ以来、私は、慶應義塾に学ぶこと―それは一個の大人として、紳士として扱われることを意味した―に大きな誇りと喜びを持ち続けることが出来たのである。』と述懐しています。高橋誠一郎

は福澤論吉の門下生で、経済学部教授、のちに文部大臣も務めました。

月去り星移り、時代は変わりましたが、慶應義塾の教育理念は不変です。慶應義塾の創立者である福澤論吉は、封建制の名残で人々が上からの指示や命令に従順で、主体的に行動する習慣を持たないことを憂い、学問を修め、世の中の流行に惑わされず、主体的に行動できる独立自尊の精神を持った市民の育成をめざしました。他者の指示や命令を待つのではなく、自ら考え自らの責任で行動できる市民の存在は、一国の成熟度を測る物差しでもあります。

慶應義塾は1858（安政5）年の創立以来、理念を共有する有志の協力による民間私立の学塾として、幾多の混乱を乗り越え日本を代表する総合大学に発展してきました。危機のたびに義塾を支えてきたのは塾生（学生）、塾員（卒業生）、教職員からなる社中協力の力です。

新入生の皆さんは、今日から独立自尊の精神を重んずる慶應義塾社中の一員となりました。皆さんが、慶應義塾の自由で大らかな気風の中で学問に励み、学術やスポーツ、芸術、社会活動などさまざまな体験を積み重ね、豊かな学生生活を送ることを期待します。

新型コロナウイルス感染症拡大にともなう緊急学生支援について

(2020年5月1日 慶應義塾ウェブサイト掲載)

塾長 長谷山 彰

塾生の皆さんへ

慶應義塾大学は、新型コロナウイルス感染症が拡大する状況を踏まえて、春季期の授業をオンラインによって行うことを決定し、すでにオンラインによるガイダンス、履修申告を経て、本格的な授業が始まりました。

この間、政府による緊急事態宣言が出され、大学キャンパスも閉鎖されています。依然として、新型コロナウイルス感染症の収束に向けた見通しは不透明であり、義塾でも、信濃町キャンパスでは、医学部・病院の関係者が昼夜を分かたず全力をあげて新型コロナウイルス感染症との闘いを続けています。

こうした状況の中で、塾生の皆さんは不自由を強いられており、特に新入生や、地方から上京し、あるいは海外から来たり、渡航困難な状況にある諸君は、生活の不便も重なって不安な日々を過ごしていることでしょう。新学期開始に向けて、慶應義塾は学部・研究科を中心に教職員が一体となって、教育・研究・医療の水

準を守り、皆さんが安心して学問に専念できる環境を整えるためにさまざまな対策を講じてきました。

例えば高等教育の将来を見据え、オンライン授業の質を高めるべくさまざまな施設・設備・情報システム環境の整備に義塾の人的・経済的資源を投入し、経済的理由でオンライン授業受講開始に必要な通信環境の整備が困難な塾生に対して、当面1万5000円の補助金を支給することを決定しました。

また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による家計急変、あるいはアルバイト収入の減少などによって経済状況が悪化し、修学の継続が困難になった塾生に対しては、国の修学支援制度や学生支援機構などによる公的奨学金とは別に、義塾が独自に備える、慶應義塾大学修学支援奨学金、2000年記念奨学金、慶應義塾維持会奨学金など総額約240億円の奨学金を積極的に活用し、加えて、緊急に奨学金枠を5億円程度増額し、一人あたり最大40万円の経済支援を行いま

す。今後必要が生じれば、さらに支援策の拡大を続けます。詳細は別途お知らせいたします。

経済的な支援だけではなく、精神的な不安や、さまざまな障害を抱える塾生への支援についても、新型コロナウイルス感染症防止に留意しつつ、サポートを続けていきます。

慶應義塾は、すべての塾生が一人も取り残されることなく、学間に芸術にスポーツに積極的に取り組むことができるようあらゆる支援策を講じる決意です。

塾生の皆さんにも、慶應義塾の塾生として、そして一人の市民として品格と良識ある行動を求めます。新型コロナウイルス感染症の拡大と共に明らかになってきたのは、医療関係者の努力、政府や企業、あるいは学校による組織的対策だけでは不十分であり、最良の対策は個々の市民の自覚と良識ある主体的な行動だということです。誤った情報に惑わされることなく、何が正しい情報であるかを見極め、適切に行動する。このことは課題

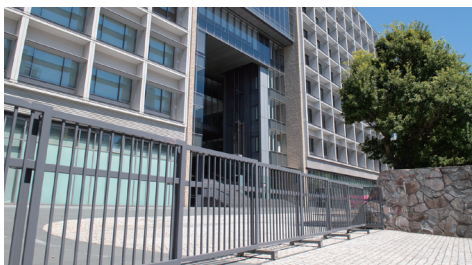
の本質を見極め、解決法を創造する学問の作法にも通じます。

慶應義塾の創立者である福澤諭吉は、封建制の名残で人々が上に寄りすがり、上からの指示や命令に従順で、主体的に行動する習慣を持たないことを憂い、学問を修め、世の中の流行に惑わされず、主体的に行動できる独立自尊の精神を持った市民の育成をめざしました。他者の指示や命令を待つのではなく、自ら考え自らの責任で行動できる市民の存在は、一国の成熟度を測る物差しでもあります。

慶應義塾は1858（安政5）年の創立以来、理念を共有する有志の協力による民間私立の学塾として、戦乱や災害などによる幾多の混乱と経営危機を乗り越え、日本を代表する総合大学に発展してきました。危機のたびに義塾を支えてきたのは塾生（学生）、塾員（卒業生）、教職員からなる社中協力の力です。

慶應義塾の塾生は、単に学生であるにとどまらず、慶應義塾社中の一員です。皆さんと共に力を合わせてこの危機を乗り越え、慶應義塾の独立自尊の精神と自由で大らかな学問の伝統を守っていききたいと願っています。

閉鎖中のキャンパス



三田キャンパス（正門）



三田キャンパス（東門）



日吉キャンパス



湘南藤沢キャンパス



矢上キャンパス



芝共立キャンパス